

住まい事始め「玄関って！日本そのもの」

「玄関とエントランス」

日本の玄関様式は、日本そのもので大きな特徴の一つです。玄関の様式、スタイルは広さの大小はあるけど、昔から絶対的基本条件があります。それは、履物を脱いで室内に入る行為から土間と室内の床が厳然と分離されていることです。

この部分を玄関と称し日本独特の空間です。この様式は、武家づくりの玄関が元のものになっているようで、一般の人にとって憧れの場所でした。

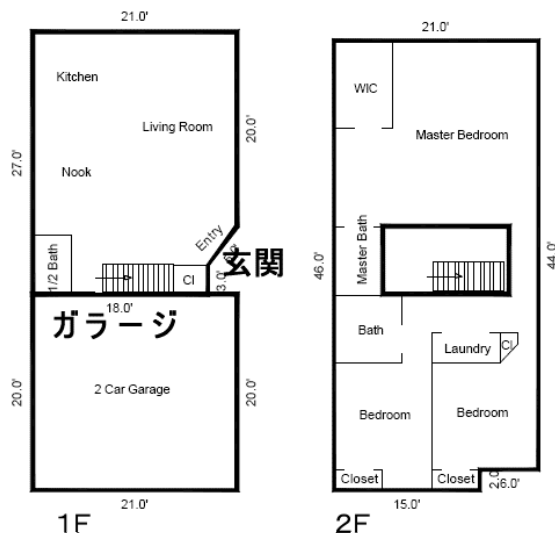
士以外の農工商は、玄関はつくることが許されていなかったことにより、一層強い思いになっていたのでしょう。しかし下級武士の住まいには、玄関らしきものがない建物もありますが。



下級武士の家 右側の開口部が玄関で、外側に階段があり障子を開けるといきなり畳の部屋

ということから今日までこの玄関が住まいにとっておおきなウエイトを占めています。

一方、欧米の住まいでは、日本式玄関と違い住宅の中には土足のまま入る習慣のため、ここをエントランスと称し日本の玄関のような床の段差などの空間の仕掛けはなく、靴のままいきなりリビングに入ります。



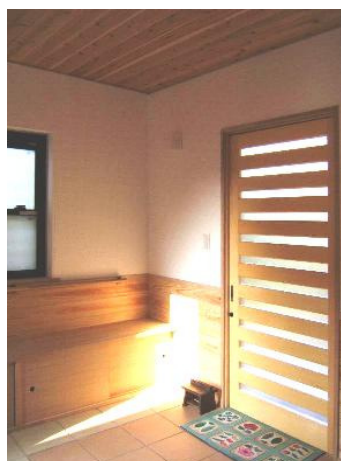
usa-rei.com/archives/post_313.htmlより

しかしマンションといわれる大邸宅には、映画などによく登場するビジュアルな階段を含んだエントランスホールと呼ばれる大空間が広がっています。日本の住宅にもこれを模したスタイルを時折見かけます。

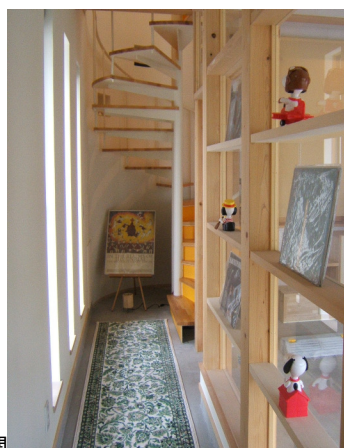
戦後新しい住まいの在り様として合理化の理念から玄関や床の間廃止論が唱えられた時期がありましたが、この日本式玄関の空間は廃止やすたれることなく今日に引き継がれてきています。

空間やコストの面で合理性に問題があるかもしれませんが、日本の実質的生活習慣上必要性が高いからでしょう。

いま日本は高齢化社会となり、この玄関も変化し、土間と床に段差なしのスタイルで作られています。日本式玄関の基本的な形は変化していません。



ベンチ付玄関



廊下も玄関のうち

玄関の空間は費用的にも機能的にも無駄かもしれませんが、土足の問題や外用の道具も増加し、さらに花粉症問題からこの玄関スペースをワンクッションとする住まいの中での位置づけがなされています。

古来、日本の玄関は内外を繋げる場所としての作法空間でもあり、また、和風づくりの玄関は、職人たちの腕により自然素材、木・漆喰・和紙で仕上げられた格調の高い美しさです。



和風の玄関

